

## 第9期第1回神戸市立図書館協議会議事要旨

日時：2025年2月5日（水） 10時～11時30分

場所：神戸市立中央図書館2号館4階 研究室(1)(2)

出席者：(委員)原田会長、安若委員、小野委員、尾野委員、合田委員、常泰委員  
(事務局)中央図書館長、総務課長、総務課担当課長、利用サービス課長、  
総務課係長4名、利用サービス課係長2名、  
利用サービス課担当1名、総務課担当1名

傍聴者：5名

### 議事次第

#### 1 開会

第9期第1回にあたって

- ・第9期委員のご紹介
- ・神戸市立中央図書館長 挨拶
- ・事務局紹介

#### 2 協議

会長・副会長の選出

#### 3 報告

令和6年度事業概要

令和7年度事業計画（案）

- ・郷土資料の収集（アーカイブ化）
- ・神戸「本」の文化振興
- ・新館の整備状況（垂水・北・三宮の各図書館）
- ・中央図書館1階エントランス改修
- ・電子書籍の充実・学校園との連携（GIGA 端末）

#### 4 閉会

### 議事要旨

#### 2 協議

会長に原田委員、副会長に齊藤委員を選出。

#### 3 報告

事務局より報告。

### 「令和6年度事業概要」(資料別添)

令和6年度の事業について報告。

### 「令和7年度事業計画(案)」(資料3～8)

令和7年度の事業について概要(資料3)及び要点を説明。

- ・郷土資料の収集(アーカイブ化)(資料4)
- ・神戸「本」の文化振興(資料5)
- ・新館の整備状況(垂水・北・三宮の各図書館)(資料6)
- ・中央図書館1階エントランス改修(資料7)
- ・電子書籍の充実・学校園との連携(GIGA 端末)(資料8)

### 【「令和6年度事業概要」に関する質疑応答】

(会長) 事業概要について質問もしくはコメントがあればお伺いできればと思うが、いかがか。貸し出し冊数については24ページに利用実績があるが、横ばいもしくはコロナ禍を除いては若干微減という状況になっている。これは神戸だけの特徴ではなく、平成24～25年頃から全国的に微減傾向にある。神戸においてもほぼ同様の傾向が見られているという意味で、全国的な傾向だと考えていただければと思う。入館者数と貸し出し冊数については館全体の容量の制限もあるため、だいたい全国平均であることを踏まえてお考えいただきたい。とは言っても、もっと別のことを考えるべきだというご意見は当然あるかと思うので、それらを含めて何かご指摘があればぜひお願いしたい。

(会長) よろしいか。もし後ほど何かあればご意見いただければと思う。

### 【「令和7年度事業計画(案)」に関する質疑応答】

(委員) 新館の整備状況について、新三宮図書館は大きいのに、蔵書が垂水と北より少ないのはなぜか。

(事務局) 新三宮図書館はバスターミナルの上であり、三宮の顔となるため、初めて神戸に来られた方を含めいろいろな方に来ていただけるような、広々とした空間として作っている。

(事務局) 蔵書数はいずれも今の図書館よりは増える。新三宮図書館は、ゆったりとしたスペースと蔵書数のバランスを見てこの冊数としている。

(委員) 神戸の顔なのに本が少ないというのは嫌だと思ってしまう。

(会長) 開架スペースと閉架スペースの問題があるので、必ずしも少なく見えるかどうかということにはならない可能性もあると思う。閉架の方が少なければその分だけ冊数が減る。開架エリアの割合の違いは大きいと思うが、後ほどそれを教えていただきたい。

(会長) 垂水の図書館については、今年の7月開館予定が2か月遅れて9月になる。工期の遅れということだが、何か特別な理由があるのか。

(事務局) 建築の入札不調があった。万博があり、建築資材が高騰していたため、その影響で遅

れている。

- (事務局) あわせて工事を複数行っており、工事間のスケジュール調整等の関係で遅れている。
- (会長) 了解した。仕方がないが、ちょうど8月は利用が見込まれた時期だった。できれば次回以降は計画をさらにきちんと立てていただきたい。蔵書冊数と面積の話で、先ほどの説明だけではわからないことがある。垂水図書館は2,200㎡で12万冊、北図書館は1,500㎡で12万冊であり、蔵書数の多寡は面積が広い、狭いからということではないだろう。これらはコンセプトの問題で、どの程度書架に充てるのか、滞在型というのが中で話をするような場所を設定するのかといった話になる。ただ、その説明はここには十分出ていないので、面積と冊数だけだとよくわからない。市民の方々も期待されていると思うので、それを納得していただくためにも、コンセプトを、開架の面積のうち書架に充てられる割合も含めて、丁寧に説明していただけるとありがたい。
- (委員) 私自身が利用を心待ちにしている。空間が大事なのも分かるが、図書館では圧倒的な本の量を見たいという気持ちがあるのでお聞きした。
- (会長) 近年の図書館は、滞在型の図書館を目指す方向が全国的に、また全世界的に広がってきていて、書架については必要に応じて入ることができるようなスペースや、オンライン予約等を含めた形ですぐさま入手できるという時間の方を優先している。飾りと利用とのバランスを取るという話が出ているので、そのあたりを含めた計画なのだろうと思う。いずれにしてもその説明は重要なので、丁寧にお願いしたい。
- (事務局) おっしゃるとおりコンセプトを書くようにする。ただ、新三宮図書館は、忙しいビジネスマンや、あまり本を読まない若い世代も来てくれると思う。そういった人にも分かりやすいようにしたい。例えば中央図書館だとぎっしり本があるが、三宮は本を面展で分かりやすく置いたりして、来た人がパッとわかる、すぐ選べる、読みたいと思える図書館をコンセプトとしている。そういう趣旨からどうしても冊数は減るが、もちろん神戸市の12館の本はすべて借りられる。12館全体で本があると考えてもらって、三宮はそのようなコンセプトで、新しい図書館を目指していきたい。
- (会長) 「美しい知と情報のゲートウェイ」というと分かるようで分からない言葉だと思う。説明をされるのであれば、ぜひ今の内容くらいは加えて、実際にゲートウェイ的な機能を果たすためには何が必要なのかという説明が欲しい。まだあと2、3年あるとは言っても、近くになってからではなくて早いうちに、コンセプトと、そのためにどうなっていくのかというあたりをわかりやすく教えていただきたい。
- (会長) 他にもご意見があればお願いしたい。
- (委員) 新しい図書館は閲覧席や自由席が充実していて、使いやすい図書館として工夫されていることがよく分かった。要望は、ボランティアとの協働。様々なボランティアとの協働が考えられると思うが、その人たちが図書資料を使って研鑽を積むための部屋は確保されているのか。市内には読書に関わるいろんな団体があるが、打ち合わせや学習作業で使える部屋は限られている。そして、ボランティアで報酬はないのに、部屋を借りるためにお金がいるという現状がある。これだけ充実するのであれば、ボ

ランティア室や自由研究室、名前は何でも良いが、そういう方たちが公的なボランティアをするために使う部屋はやはりどの図書館にもあってほしいと願っている。

(事務局) 2年前に整備した新西図書館には、ボランティア控室を設置している。これから作る3つの館については、ボランティア控室という名前ではないかもしれないが、多目的で使える部屋を用意しているので、そちらをご利用いただければと思う。

(委員) ここに明記していただいたら喜ばれる方も多いと思う。

(委員) ディスカッションルームのようなものは作られるのか。ヘルシンキの中央図書館を見に行ったが、小さなディスカッションルームがたくさんあって、学びに来た人たちが協働的に学べる部屋として学びに関するいろいろなものが置いてあり、人が集う、使える、使いやすいシステムができていた。これからの時代、一人で本を読むだけではなくて、学校も生涯学習もそうだが、少人数でディスカッションをしながら学んでいくことが必要になってくるのではないかと思う。新しい図書館にそういう部屋やものがあると良いが、今のところ予定はないのか。

(事務局) 垂水図書館の4階にセミナールームがある。ここは自由におしゃべりしながら使っていただけるような場所ということで整備している。北図書館についてもグループ学習室という形で設置している。

(事務局) 新三宮は図書館を出たところにギャラリーというか、みんなでしゃべれるようなところは考えている。

(会長) 多目的室がいくつか用意されているということか。

(事務局) はい。

(委員) 大人が予約して使うだけではなくて、例えば中学生が3、4人で行って調べ学習をして、その時にそこでならしゃべりながら作業をすることができるような、子どもたち目線のものがあるとありがたいなと思っている。

(事務局) 西図書館にもグループ学習室があり、来た時に申し込んでいただいて空いていれば使える。そこはしゃべりながら勉強したりできるので、そういった方向で垂水図書館も進めていく。

(会長) やはり全体的にいろいろと教えていただくことは必要だと思う。先ほど説明にあったように、三宮図書館に関してはビジネスマンの利用が見込まれるので、ビジネス利用やビジネス支援といった話も中心になっているのかもしれない。一方で西図書館や垂水図書館は若年層の利用が多いということで、今言われているような部屋が必要になっていると思う。ぜひ、どのように使えるのかというイメージは持ってもらえるような形で説明をしていただきたい。もう1点、最近の図書館は静かでない図書館が基本的に流行りでもあり、障害者差別解消法に基づく事情もあって、増えてきている。この運用方針に関しては、垂水にしても北にしてもゾーニング、つまり静かなところとそうではないところを分けて運用されるのか。それとも静かな空間を基本とするのか。そのあたりの方針は決まっているのか。それともこれから決めるのか。

(事務局) 垂水図書館はフロアが分かれているので、子どもの本のフロアと大人の本のフロア

がある。当然子どもの本のフロアはざわざわするが、その奥に勉強する場所があり、フロアの中でもゾーニングしている。北図書館は南側が児童コーナーで北側が大人の本のコーナーということで、ゾーニングしている。我々のイメージの図書館というと静かで、物音を立てるだけで注意される感じだったが、そういう雰囲気ではなくなっているので、ある程度ゾーニングして、静かに過ごしたい人にも気持ちよく使っていただける場所を設けるという形で運営していきたいと思っている。

(会長) 静かな空間を望まれる方もたくさんいるが、高知市のオーテピア高知や、新しく建てようとしている東京都足立区の図書館、また金沢のビブリオバウムでも、基本的にはしゃべれる空間の方がどうやら利用者の効果が上がりつつあるという結果も出ている。将来の変化にも対応できるような方針を考えて、柔軟に運用をしていただければと思う。いろんな意見があるかもしれないが、どんどん変わっている図書館の姿が世の中で広がっているので、ぜひご検討いただきたい。

(会長) その他にも含めてご意見があればどうぞ。

(会長) あと2点ほど聞かせていただきたい。資料5にある「本」の文化振興プロジェクトについて、わかりにくい表現がいくつかあったが、ZINE というのは基本的には昔の表現でいうと自費出版的なものという捉え方で良いか。

(事務局) そうだが、もっと簡易なものを指す。

(会長) チャプターズに関しても、ご存じない方もいらっしゃると思うので、ぜひ説明した上で解説していただければと思う。本を選んで、そして配送してくれるサービスというイメージか。

(事務局) そうだ。

(委員) AI がやるのか。

(事務局) 森本さんがされている。

(会長) 同じようなサービスは他の書店もされているが、なかなか流行っているようだ。新たなサービスをいろいろやっていただくのは面白いと思うが、図書館はこれらのプロジェクトにどのように関与していくのか。外部アドバイザーを登用されているが、それだけで図書館の役割が果たされたということではないと思う。書店の振興は図書館の本来の役割ではないという意見もあるかもしれないが、図書館と書店がぶつかる関係は決して望ましくはなく、ぜひうまく共同でやっていただいて、両者が神戸市に役立つことが望ましい。図書館の関わり方にも濃淡があると思うが、もし計画等があれば、このプロジェクトを立てた意味と、どのように関与し、またどのような形で書店に対してプラスアルファを提供していくのか、もしくはどんなリターンを求められているのか等、教えていただければ嬉しい。

(事務局) このプロジェクトは、市長も本が大好きですが、本の文化振興をしていきたいということで会見をした。中心は文化スポーツ局で、局を挙げてやっていこうと考えている。今年の実績の中で、例えば「絵本の旅」展は、文化スポーツ局管轄の小磯美術館で、局全体として実施した。資料5の4-(2)(3)については、どちらかという本

序でやっているものになる。それ以外は図書館でやっている。図書館だけではなく神戸市を挙げてやっていこうというものになる。また、このための予算は、図書館の経費を削って充てるものではなく、追加で用意している。来年度は、例えば SNS を使った本の文化に関わる事業をしたいと考えているが、文化スポーツ局全体で考えていこうと思っている。

(会長) 図書館がたくさんあって、場所を貸すのはよく分かる。またプロジェクトに関して講演をするのは分かる。でも図書館自身が積極的に関わっていくというイメージはあまり感じられなかったのが気になる。図書館の方も存在意義を示す関わり方があっても良いと思う。場合によっては図書館が様々なデータを集めて、このような本がたくさん借りられている、もしくはこの本とこの本が同時に借りられているというような情報を書店に提供するようなものがあっても良いかもしれない。また逆に書店で売られている本に関して、その選書の活かし方も考えられるかもしれない。非常に良いプロジェクトだと思うが、関わるならば、より活かせるような形を考えていただければ嬉しい。反対意見があるかもしれないので、もしあれば教えていただきたい。

(委員) 神戸「本」の文化振興プロジェクトは、神戸、兵庫県で出版業務を営む私どもにとっては非常に心強い動きだと思っている。その中で、神戸市内中心部には書店の数が少ない。元町商店街という神戸を代表する商店街に書店がないというのは非常に寂しい。読者、本をお求めになる方にとって、図書館はやはり本との出会いの場になるのではないかと思う。今は、本は Amazon など調べて買うという方が大変多い。私どもの本は地域に根差した本だが、やはり Amazon での利用が非常に多くなってきている。そういう意味で図書館が果たす役割は、このプロジェクトもそうだが、交流的な位置づけによって、知らない本に触れる機会、自分の好きなジャンル以外のものに触れる機会を提供すること。今までは書店もそういう役割を果たしていたが、書店数が減ってきている中で、やはり図書館の果たす役割は非常に大きいのではないか。そういうところもご留意いただいた事業を展開していただければありがたいと思う。どちらかというイベントなどが多いと思うが、図書館の利用者の方が何か情報を発信できるような場を設けられると良い。私どもの方でも郷土史を研究されている方からいろんなご相談をいただく。資料をお求めになるが、古いものは書店にも当社にもない場合があり、図書館をご紹介して閲覧をしていただく機会が多いので、そういう場を作っていたら良いと思った。

(会長) 書店数は 90 年代には日本国内に 25,000 店くらいあったが、今は 8,100 店もない。3 分の 1 に減っている。一方で図書館も、恐らく神戸もそうだが、市民の中で積極的に利用されている方は 15% から 20% 前後というのが日本中の姿。本と、デジタルも含めた様々な資料について、神戸市全体で書店も図書館も両方とも活性化していくような方策を考えていただければと思う。そういう意味でこのプロジェクトはとても面白いと思うので、ぜひ北田さんにもアドバイスやアイデアをいただきながら、イベントをするだけではなくて、イベントからどうやって広げていくかということについ

でもぜひご検討いただきたい。いろんな形で図書館が関わって、図書館のプレゼンスを増していただけるというようなことも期待する。

- (事務局) 図書館だけ頑張ってPRするのではなく、利用者の方も積極的に発信できるように、例えばインスタグラムの活用など、そういったことをやってみたいと思う。
- (会長) 近年書店もいろいろな面白い活動をされている方がいらっちゃって、小さな出版社が書店と組んだりされているし、図書館側でそれに関わっている人たちもよく見る。そういうものが普通に世の中で見られるようになってくると、本や、もしくは読むということに関しての興味をかき立てると思うので、ぜひいろいろな活動を広げていただけると嬉しい。
- (会長) もう1点聞きたかったのは、資料8について。電子書籍の充実というのが他のところではなく資料8にあがっているのは、子どもサービスとして、学校園との連携の一環として電子書籍を頑張っていきたいという表れかと読んだが、深読みすぎか。5,000タイトルは結構な量だが、実際はほとんど利用したいものが見つからないに近い状況だと思われる。場合によっては、子どもたちの本に購入を集中して、GIGAスクール構想の中で電子書籍に近い子どもたちへのサービスとして持っていくこともできると思う。資料8にあげられた理由は、そういうものを目指しているのか、そうではなくここに電子書籍をあげたのは別の理由があるのかについてお伺いしたいと思ったが、いかがか。
- (事務局) ここのメインは学校園との連携。今は、小学生は図書館カードを作ってもらわないと神戸の電子図書館を見られないので、カードを作らなくても学校に行けばGIGA端末で見られるようにするべきではないかと考えている。まずは今こういうことを検討しているという学校連携をメインで書いたが、電子書籍も徐々にではあるが充実させているということを申し上げたうえでの学校連携ということになる。
- (会長) では一応独立しているということか。ジャストアイデアに近く個人的な意見で恐縮だが、電子書籍を購入するという話を広げていくと、予算的に考えても、紙の本と電子の本というのは使う人の層が分かれるので、電子書籍を充実させるということは紙の本を減らす以外の選択肢はほぼない。もちろん数千冊なら別だが、世の中の利用者が満足するところまで増やしていこうとすると紙の本を減らす以外手はないと思う。それを目指す手もあると思うが、そうではなくて、子どもたちが使う本に特化して電子書籍を増やして、それに関しては紙の本を買わないとするのであれば可能かもしれない。なので、ここにあげられているのは、電子書籍を充実させるときに何らかのゾーニングを行う意志があるのかと読んだが、そういうわけではないのか。
- (事務局) そういうことではない。ただGIGAを進めるのであれば、児童向けの本は確かに増やさないといけないと思うし、読み放題がやはり重要になる。多数の児童が見に来るので、一冊だと借りられてしまう。読み放題パックは充実していかないといけない。
- (事務局) 電子書籍は利用期間が2年間または貸出52回の制限付きが多いが、GIGA端末での利用については、契約期間内は回数制限がなく、子どもたちが同時に同じコンテンツを

利用できる読み放題型を想定している。

(委員) あまり小さい子どもに電子書籍を読ませるのは発育に良くないのではないかと感じているが、いかがか。電子から入っても、紙で読んだ方が良いという導きがある方が、子どもの発達に良いのではないか。自分の子どもが電子的なものも好きだったが、電子的なものを見すぎると不眠になってしまうので、なるべく紙の本を読んだ方が良いという医師の指導をもらったりした。発達段階にどんどん電子的なもので入ってくるのは脳に良くないのではないかと思う。

(会長) 当然のご意見だと思う。将来的には考えていけないといけないが、調査によれば今のところ悪さを与えるほど読んでもくれないと言われている。数百人だけを対象とした調査だったので、はっきりしたことはまだ言えないが、電子しか与えないから電子が悪いという話になるレベルまでは、今は残念ながら達していないのが現状だと思われる。ただ、紙の本と電子の本をそれぞれ与えなければいけないというのは当然の話。紙を読んでもくれるなら全然話は問題にならないが、紙も電子も読まないという人々の中で、電子なら読むという人がたまに出る。だとするならば、電子の形で子どもたちが読むタイミングで提供してあげる方がまだましかなという話が指摘されることも多い。実際に電子の本が読まれないという話に関して言うと、多くの図書館で52回の貸し出しをクリアされる本というのはほんの数冊ではないかと思うが、もう少しあるか。

(事務局) もう少し多い。

(会長) 今は少し増えたのか。実際問題として5,000冊すべてがそうなるという話ではないということと、読まれる本が一部に集中する傾向が見られるということもある。なので、子どもたちが読むなら、それらの本について選択肢を広げてあげるという手もあると思うし、予算の関係と、先ほど申し上げたように紙の本との関係があると思うので、総花的に買われるというよりは何らかの計画を立てて、こういう方針にあるからこの本を買うという説明ができる形にさせていただくことも計画されてはどうか。もちろんご意見は当然のことだと思うので、いろんなものを考慮していただきつつお願したい。いろんな図書館があつて、例えば枚方の図書館は確か青い鳥文庫に特化して貸し出しをされているという話を聞いているし、東京の足立区立図書館は購入される電子書籍のうちの約6割を子どもの本に特化して予算をつけたという例もある。逆に京都府立図書館のように、調査をするということを目的として、どちらかというところもある。子どもの本を中心にすることが必須だとは思わないので、何のために電子書籍を使うのかということを考えてほしい。いろんなところを参考にして、説明できるような形で、なおかつ利用がどのような形になるのか評価をしていただきたい。

(委員) 私は紙と電子を両方読めることが望ましいというか、むしろ電子抜きで子どもたちのこれからの人生はない、そういう時代に差し掛かっていると思う。GIGA スクール構想は急激に進んでいるが、学校が資料の充実を追いついていない現状で、どこが支

えるかという図書館しかない。だからこういう取り組みをされていることはとても応援したい気持ちになっている。今の子どもたちを見ていると、紙の本を読む子は電子図書を読む。読まない子はどっちも読まない。電子化が先進している国で、小さい子は読まないように決めたというような報道があったが、それだけの積み上げができたから問題が出たという部分もあるだろうし、弊害ばかり気にして進まないというのはどうかと思う。子どもの良いところは物怖じしないで何でも挑戦できるところなので、図書館がこういう予算を気にせず借りられるコンテンツを用意されるのはとても頼もしいと思う。このまま進めていただけたらありがたい。

(事務局) もともとご両親が本を買うお子さんは家に本があるが、本がない家もたくさんあると聞いている。そういう環境で、図書館には行きにくいと思ったりする子が、家で、パソコンで本を見てみようかなという、電子書籍がそのきっかけになればとても良いかなと思っている。ありがとうございます。頑張ってください。

(委員) 児童書はランダムな感じで、今話題の本などが揃えられるのか。それとも、国語の教科書などに紹介されている本を中心に入れるのか。GIGA 機は学習にわりと使っていて、授業中も結構出して使っているのだから、課題が終わった後に、例えば今国語の学習をしているので宮沢賢治の本を読んでみようという時にパッとそこで読めると、この授業中だから読もうかな、みたいな子も出てくるのかなという気もした。

(事務局) TRC-DL が取扱いしているコンテンツの中から購入していくことになる。子どもたちが知っている著者やタイトルを選び、まず興味を持ってもらえるように考えている。現在、総合学習の本を学校に団体貸し出しをしているが、複数の学校に同じ本を欲しいと言われると、それはできないという話になる。もっと総合学習を支えるようなコンテンツが増えて読み放題契約ができれば、電子書籍で同じものが読めるようになる。それは選書する際のポイントになると思う。学校との連携が進めば、先生方にも本選びの相談にのっていただきたい。

(委員) それはとてもありがたい。副本が必要なものをスキャナーで撮って電子書籍の方に移す作業を各学校の教員がしているので、そういう形で資料があると非常に学習には役立つと思う。

(会長) 国立国会図書館が約 200 万件の資料の送信サービスをしているので、そちらにあるものについてはそちらをすぐさま使えるというような紹介をすることも必要。実は教科書に載っている本の 4 割～5 割弱についてはすでに国会図書館が提供している。なので、例えばそのままそれをリンクするようなものを作っていただければ、それだけでも随分違ってくると思う。電子書籍はこれから進んでいくことが当然考えられるので、それを含めたサービスを将来像も含めて検討していただきたい。特に GIGA スクール構想の進展に関しては、国立教育政策研究所の調査官が北欧に行かれて調べた結果によると、北欧の方は一気に進んだ。なぜかという、小学校の時に GIGA スクールのような授業を受けていた人が教員になった時に、いきなり利用が増えた。なので、そこまで時間はかかるかもしれない。でもその段階が来た時にいきなり利用

が増える可能性が十分にある。日本でも、GIGA スクール構想が始まって 10 年になる 4～5 年後にそうなるということは十分考えられる。そういうことも踏まえていろいろと検討されることが必要だと思う。業者が提供する本だからというだけで選ぶことはやめてほしいというのが正直ある。

(会長) 他にコメント等はないか。時間も押してきたので、本日の議事について説明していただき、また皆様からご意見をいただいたところで、このあたりでお開きにしたい。進行を事務局にお返しする。

**【閉会】**

(事務局) 長時間にわたるご協議をありがとうございました。本日の協議会での内容について事務局で議事録を作成させていただき、各委員の皆様にご確認ご承認をいただく。次回第 2 回の協議会は、7 月から 8 月頃を予定している。事務局から皆様に日程の調整を依頼するので、よろしくお願ひしたい。それでは本日の協議会は終了とする。